平成２７年度　協働事業振返り調査票

協働事業の名称　　救急車の適正利用促進事業

所属名(団体名)　特定非営利活動法人　VAICコミュニティケア研究所

１　事業の振返り

振返り項目	振返り結果 １～５を記入	コメント（理由、感想、気づいたことなど）
１－１　協働相手の選定(市) 協働相手を公募しましたか。公募しない場合は、選定理由を明確にしましたか。		
１－２　協働相手の選定(団体等) この事業の協働相手として自分の団体はふさわしい団体でしたか。	5	NPOとしての活動経験を活かすことができた。
２　目的の共有 事業の目的・目標を共有しましたか。	5	事業の進め方についての打ち合わせや、進捗状況を共有するための協働事業会議を複数回おこない、共有することができた。
３　目的・目標の達成 事業の目的・目標は達成できましたか。	4	救急車出動件数に対しての直接的な支援ではなく、関係性を構築することで間接的な支援ができたと考える。
４　事業実施中の意見や情報の交換 適宜、意見や情報の交換を行い、必要に応じ協議事項の見直しを行うなど、柔軟に対応できましたか。	5	進捗状況を共有するための協働事業会議を複数回おこなうだけでなく、常に連絡をとりながら、進め方など柔軟に対応できた。
総合コメント 事業対象者の個別支援計画作成のためにケースワーカー、民生委員をはじめとする事業対象者のまわりにいる支援者に対する事業説明をおこなった。また、地域住民に対して事業説明をする機会が持てたことで、救急車の適正利用の理解が広がったと考える。		

２　協働の振返り

振返り項目	振返り結果 １～５を記入	コメント（理由、感想、気づいたことなど）
１－１　協働の形態の選択(市) 選択した協働の形態(委託、共催、事業協力、支援・補助)は適切でしたか。		
１－２　協働の形態の選択(団体等) 自らの特性を活かせる連携方法でしたか。	5	相談事業、地域交流事業、生活支援サービス事業などを事業展開しているNPOとして、経験を活かした連携ができた。
２　協働の意義の明確化 協働で実施する必要性やねらいを明確にしましたか。	5	協定書および打ち合わせで役割分担を明確にできた。
３　主体性・自主性の尊重 お互いを理解し、尊重して事業を進めましたか。	5	それぞれの特性を活かして事業を進めることができた。
４　役割と責任の自覚 役割分担や責任の所在が明確でしたか。	5	協定書および打ち合わせで役割分担を明確にでき、責任の所在が明確であった。
５　協働の成果 協働ならではの成果はありましたか。また、副次的な効果はありましたか。 *副次的効果：会員が増えた、会員や職員の育成につながった、新たな事業展開や課題解決方法が見つかった等*	4	協働事業の説明する機会をもつことができたことで、さまざまな分野に救急車の要請状況や適正利用についての理解が広まった。 生活に様々な課題を抱えながらこれまで相談に結びつかない人たちの掘り起しとなった。
総合コメント 協働することで、それぞれ専門性やこれまでの経験を活かし、他方面から事業を捉えることができた。また、それぞれの持つ地域資源のネットワークを共有することができた。		

この振返りは、協働事業を行った双方が、協働事業への理解を深め、良好なパートナーシップを構築することにより、

お互いに成長し、また、よりよい協働事業の発展につなげるために実施するものです。得点の高低や事業の優劣をつけるものではありませんので、率直な意見を記入してください。※振返り結果は　1（評価が低い）→　5（評価が高い）の基準で記入してください。